

山形県酒田工業用水道事業の紹介

○事業の趣旨

酒田工業用水道事業の給水区域は、山形県の日本海側に位置する酒田市の大浜・北港地区と川南地区である。

大浜地区は、県内唯一の貿易港として古くから栄える酒田港に隣接する、日本海岸では有数の臨海工業地域である。

北港地区は、酒田港の発展により港湾拡大した酒田北港の後背地に、県が造成した酒田臨海工業団地である。

平成15年4月には、酒田港（酒田北港を含む）がリサイクルポートに指定され、今後は廃棄物関係企業を中心とした発展が期待されている。

川南地区は、先端技術産業の誘致を目的として酒田市が造成した酒田川南工業団地である。

当事業は、戦後の経済成長の中で重要性を増した酒田港の発展と、臨海工業地帯の成長を目的とした産業基盤整備事業として開始された。

○事業の経緯

酒田工業用水道事業は、県土木部により昭和34年11月に事業計画を策定され、企業局（当時は県電気局）に移管された。

酒田工業用水道建設工事は昭和36年3月に着工され、昭和37年6月に主要工事が完成。7月からの試験給水を経て、9月から酒田港（大浜地区）への給水を開始した。

昭和49年12月に、北港地区への配水管延長工事を着工、翌年7月に完成し、給水を開始した。

昭和57年度に、通商産業省が昭和56年度に「改築事業国庫補助制度」を新設したのを受け、3年にわたり石綿管の布設替え工事を行った。

昭和62年度に、川南拡張事業を着工。平成4年4月から給水を開始した。

平成10～13年度には、老朽化した設備の更新と、管理体制の効率化を目的とした電気、計装及び機

械設備の更新工事を実施した。これにより、浄水場は無人化され、運転管理は庄内広域水道平田浄水場からの遠方監視となった。

現在は、一部残存する石綿管の布設替えと高速凝集沈澱池の耐震性向上を目的とした改築事業（国庫補助事業）を、平成16年度からの9カ年計画で行っている。それに合わせ、改築工事のコスト縮減と、今後の工業用水の需要を考慮し、当初100,000m³/日の計画水量を75,000m³/日に見直した。

○ユーザーの概要

（平成20年3月末現在）

業種	給水件数	契約水量
化学	4	10,800
電子	4	7,750
電力	1	6,000
リサイクル	1	750
下水道	1	480
ガラス	2	310
運輸	2	100
コンクリート	2	100
その他	5	1,020
合計	23	27,310

○工業用水道施設の概要

・取水設備

酒田工業用水道は、最上川の表流水を水源とし、浄水場に隣接した取水ポンプ場において、取水ポンプで取水した原水を浄水場に導水している。

・浄水設備

3基の高速凝集沈澱池が整備され、PAC及び苛性ソーダを注入して凝集沈澱処理を行っている。

・送、配水設備

大浜・北港地区は、加圧ポンプ場まで自然流下にて送水し、加圧ポンプ場から松陵配水池まで圧送、松陵配水池から自然流下で受水企業に配水している。

川南地区へは浄水場内に整備された川南配水ポンプにて増圧配水している。

送水管（浄水場～加圧ポンプ場間）はφ1,100で延長約6.2km，圧送管（加圧ポンプ場～松陵配水池）はφ1,000で延長約1.7km，配水管はφ150～1,000で総延長約17.2kmである。

○山形県企業局のホームページアドレス

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kigyo/>

○酒田工業用水道 事業概要図

